

おんちゃんのバイク

書き手:澤村知秀 花百姓 元登校拒否児 現不登校児の親 未だ成長する 44 歳児

良い季節です。春から初夏に変わるそんな時、風を感じてみたくはないでしょうか。感じたい！感じたいぞよ！ワシは！なんもかんも忘れて消えてぶっ飛ばして風になりたいんじやー！盗んじやいけないバイクで走り出す、行き先は温泉地、そんな 45 の夜。

全国民は 1 度はバイクに乗るべきだ会の会長もやらせてもらってます、おんちゃんです。いやね、バイクってすごく危ないんですわ。タイヤが二つしかないでっしゃろ、バランス取らないと倒れるわけですわ。それに、人の体がむき出しでっしゃろ、事故したら死ぬほど痛い、どころか死ぬんですわ。そのくせスピードはすぐ上がるでっしゃろ、止まり方間違ったらすっ転ぶんですわ。止まっても屋根がないでっしゃろ、雨で濡れるんですわ。ほんと、こがなもん誰が乗るっちゅうんや。と、思いますがな。

でもな、乗ってる人は皆一様に「風が気持ちいい」「風を感じられる」とか「風と一体になれる」とか言いよるんです。風が一風が一とか、おまえらは風の谷の住人かよ。メーヴェでも乗るのかよ。と言いたくなりますわ。そんでもな、風になる感覚が味わえるのは本当なんですわ。バイクとの一体感も本当なんですわ。危険と引き換えになんも得られないわけじゃない、感覚が、得られる感覚があるんです。こればかりは経験した者でしかわからない。ただの移動手段ではない、感覚の移動とでもいうべき体験が、体を突き抜けるような、余計な迷いが後ろに剥がれ飛んでいくような、錯覚のような体験がバイクではおきるのです。今回はバイクについて書いていきましょう。バイクに乗っていない私が、バイクを降りて数十年の私が、なんなら車でこの文章を書いている私が、ありったけの妄想力と忘れきった記憶力とウソまみれでバイクについて書き殴ってやろうと、こう考えとります。

まずはいつも通り私とバイクとの出会いからです。私がバイクを駆ったのはうら若き高校生の頃でした。16 歳から原付バイクの免許が取れるようになったので伊野の免許センターに行き、学科試験を受けた記憶があります。ポンコツだった私は、なんと 1 度では受からず 2 度目で合格したと覚えています。来年からは 1 発合格したと、そのように記憶を書き換えるようにしておきましょう、過去の事なので。不合格の事実を、私は受け止められず、納得できない想いはたけり、我を試すとは何事なのか、恐れ多いぞ警察め！この気持ちは当時の荒んだ私少年に深々と突き刺さり、免許更新であっても交通安全協会にピター文払わないよう決意させるには充分でした。無能な自分を棚上げするスキルは着々とこの頃から磨かれていったのだと思います。そうでした、バイクでした。免許を取ったのならば乗りたくなるものです。幾度となくカタログ、中古車情報誌、友人情報に目を通し選りすぐりを見つけようとしていました。当時はネットがまだ普及しておらず、お金も無い中、余りすぎた時間をバイク捜査に費やしておりました。当時の私は妙なこだわりがあり、スクーターではないバイクの形をしたバイクを欲しがっておりました。当時の言い方をしますと、単車と言ったような気がします。座るのではない、またがるのだ、バイクとは

そういうもんだ、だってカッコいいじゃんそっちの方が。未来の私から過去の私に、それなら中型以上の免許を取りなされと突っ込んでおきましょう。原付やぞ、50ccしかないんやぞと。そうは言っても過去の私には聞こえないでしょう、必死で探してましたから。寝ても覚めてもバイクの事ばかり、ああ、恋いこがれる鉄馬、ほしい、ほしい、はやく乗りたい。そんな想いを察してか、はたまた無関係か、愛媛のバイク屋さんに見つけました。これだ！と思い価格と予算を照らし合わせ、いける！と踏んだ、そのバイク。名をコレダスポーツといいました。シャレみたいな名前でしたがレトロなデザインが気に入りました。当時のバイクデザインの支流にはレトロフューチャーとでもいうべきか60年代から70年代のバイクデザインを踏襲した流れがありました。私自身この年代には惹かれている所があって、スムーズに購入と相成りました。運搬されてきた実車を見ると、少し小さくも感じましたが実物はイイ。エンジン音も50ccなだけあって軽い、2ストロークのバリバリ感がまたヨシです。早速またがります、スイッチ入れます、キックで始動します、クラッチ握ってギア入れます、クラッチ離して動き出す、この瞬間です。するするっと進みだしていく、この時です、自分では何の労力もかけず動いていく感覚がフワリと全身を包みます。動いているのか、動かされているのか、わからないまま不安定な2輪に挟まれてバランスを取るの余儀なくされます。車乗ってる時みたいに、まあノンビリやれや、なんて感覚はまずあり得ない。乗ったが最後、バイクワールドに連れて行かれるんです。こんな調子で初めてのバイク体験がありもうした。ああ、思い出だけでキュンキュンしちゃうです。何度だって味わいたい、あの頃の感覚。皆様も是非に40回ったハゲのおんちゃんがキュンキュンしている姿を思い起こしていただければと思います。恥を忍んでバイクの素晴らしさを伝える本気さを感じて頂きたい。まあバイクライドの初体験はこんな感じだったはずです。

コレダスポーツは沢山乗りました。何処へでも行きました。1番遠くは愛媛松山まで、冬の寒い時期、従兄弟と二人、特にあてもなく走ってしまいました。ハンドルを握る拳がキンキンに冷えて上手く動かせなかった記憶があります。危ない。ちょうど県境の村、仁淀村に祖父の家があり、一泊した次の日に何だか走りたくなった男の子達は向かってしまいました。原付バイクで走るには少々遠い道のりでしたが楽しさゆえか苦にはならなかったですね。かなり寒かったのは間違いないのですが。

買い物もバイクで、友達の家にもバイクで、禁止されてる登校もバイクでした。楽しくて楽しくてしょうが無かったんです。時々故障して直すのも楽しかったなあ。直しながら誤って指先がチェーンに巻き込まれて指落としかけた事もあったしなあ。ガスカートが吹き抜けて、慌ててマフラー外そうとして火傷もしちゃったなあ。バイクの操縦も慣れてきちゃったら無駄にジャンプとかしたくなって道路の盛り上がり部分にめがけて突進したら、見事に制御しきれずぶっ飛んだ事もあったなあ。その時の傷跡は右腕にまだ残ってる、夏だったから半袖で乗ってたせいで膿が出るくらいひどくなっちゃったのよねえ。でも決めてるんだ、人に傷跡見られてどうしたの？って聞かれたら、ツーリング中に山でクマと戦ったって答えるようにしてるんだ。本当はドブに頭から突っ込んだなんて言えないしね。子供にはママを悪漢から守ったということにしとこう、うんうんそれがいい。

友達もみんなバイクに乗ってたからよく連れだつて走ったなあ。3台ぐらい連なって、私が先頭で意気揚々と肩で風切って走ってたんだよなあ。そしたら信号待ちの時、白バイが横付けしてきて速度超過だから降りろって。白バイのおんちゃんが「お前が先頭やき、ちゃんとスピード見ないかんろう」って怒ってきたよ。心の底からブルツちまったよ。手持ちの100%申し訳なさそうな顔を引っ張り出してすみませんって言ったら、夏に革の制服着て汗ダラダラかいたおんちゃんは「気をつけろよ」って言って去っていったよ。違反にはならなかった。同情を買う方法はかわいそうだと思う事なんだね。たかだか10キロオーバーで止める方も止める方やけどな。ま、少々嫌なことがあってもバイクに乗ったらどうでも良くなったんだな。モヤモヤ考える前に事故ったら死んじゃうから運転に集中せざるを得ないしね。それがまるで悩み事を走りながら脱ぎ捨てるかのように思えたんです。。。 (あ、そういえば今日、教室でクセえ屁こいちゃって恥ずかしくて仕方がなかったのに、陰キャで屁こきとか終わりなのに、目の前のカーブを今までで最高速のまま抜けきっていける自信があるぞ。スロットル回そう、腸内環境回すより、それが大切な気がする、行こうぜ俺、プピリオドの向こうへ)。。。そう、こんな感じだったはずで。素晴らしいですね、如何にスリルが悩みをかき消すことができるかを身をもって経験できる。それがバイクなのです。

さあ、ここまで読んだら乗りたくなってきたのではないかな？ ちょっぴりスリリングな体験、してみたくなってきたのでは？ 私は猛烈に走り出したくなってきていますよ？ 一緒にどうですか？ こんな気分になったのも20代の中頃でしたな。古い仲間たちがツーリング名目で集まりました。クルマもあるのに全員原付バイクで集合。7人ぐらい集めたのに当日出発するまでなんの計画もありませんでした。男の子うちゅうもんはいつまで経ってもお馬鹿なもんです。当時の心境を覗いて見ましょう。。。 (何処へ行くか、何をするか、飯は食うのか、そんなもん知るか。俺らは行きたいところに、風が吹くまま、走って行くのさ。誰にも止められないぜ)。。。まあ、とりあえず北に向かいました。南は海ですから、北しかありませんので。北と言っても、山しかないのが土佐でございます。登り坂を原付のパワーで上がっていくのはなかなか難しく、怖い。ほらほら1名がカーブでバランスを崩して竹やぶに突っ込みましたよ。私がシンガリだったからよかったものの、一命を取り留める事にはならなかったかもしれないですね。慣れない事をやる時は気をつけましょう。バイクは無事に人間の故障も無く旅は続きます。だいが登って平坦な道になりました。道路の両側にススキかセイタカアワダチソウが風に揺られてザワワしています。1番風を感じる真っ直ぐストレート、エセライダー達は気持ち良さそうです。皆おのおの、手を挙げたり、腰を上げたり、叫んでみたり、それぞれ感じる物があるのでしょう。なんとなく先頭が休憩地点に寄りました。ここらで缶ジュースでもやりましょうと。走ってる時は表情が分からなかったけど、皆よい笑顔をしてる。一服しながら、竹やぶ特攻事件で笑いが上がっておりますね。再出発の段にエンジンがかからなくなる1台がありました。タンクを見ると空っぽ。山中にスタンドなんかありゃしない。気ままな旅だけど、最後の手だけは準備するのが我々です。シュコシュコ灯油ポンプはこの時のため。取り出して仲間のタンクからシェアします。ガソリン泥棒してるみたいやな。帰りはバイクを交換して帰ります。下りカーブもこれまた楽しく、ゆっくり日が暮れるのが、ちょっぴり切なくもありました。後々聞くことだけど、皆あの時のツーリング

が楽しかったと、また行きたいなと。こう聞かされました。気心が知れた仲間と走ると楽しくなるのかな。間違っちゃいないだろうけど、ホントはめんどくさい事、うるさい事を脱ぎ捨てて、ちよっぴりスリルを共有して、協力して楽しんだ時間を1枚2枚と着込んだんだと思うなあ。また明日からはストレス着込んだじゃうだろうけど、その下に着込んだものは脱ぎ捨てる事が無いように願うわ。なかなか顔を合わす機会も減ったが、いずれまた走る事もあるだろう。暴走族のニーチャン達も同じ気持ちがあるのかなあ。うるさいけど、うるさい事を脱ぎ捨てたいのかも分からんなあ。

原付以外にも乗ったよ。中型免許を取ってから250ccのオフロードバイク、ホンダXLR250を手に入れたのよ。これは私が岡山に住んでいた時代やね。当時は阪神淡路大震災があって、道路が普通に使えるように思えるか微妙に疑問を感じる時代だったのよ。どんな悪路でも走破できるバイクを手に入れたい要請がアタマの中から出てきちゃった。夏には高知の大豪雨があって、美術館が水没したりもしたけど、オフロードバイクでなきゃ無理というほどの状態には遭遇せんかったね。幸いな事やけど。でも帰高はこのバイクで何度も何往復もやったで。さすがに年末年始の四国山脈、山越えはつらかったけど、装備を整えて、慣れてしまうと楽しくなっちゃった。タイムアタックとかしながら如何に早く帰るかとか遊びをしながら帰るのは面白かったなあ。高速道路は危ないき下道ばかりを通過して行くがやけんどフェリー乗るのも楽しかったなあ。バイクを船に固定する方法は始めて見るようになった、歯止めとロープで上手いこと固定しちゃった。慣れちゃう人の仕事を見るのはなかなか勉強になる。

ああ、バイクの思い出を思い出すのは楽しいなあ、嬉しさもあるなあ。やっぱりもっと走りたくなるなあ。乗っててよかったバイク式、何度も事故って死ぬかと思うたけどバイクが悪い物として捉えることはできないのよねえ。もしこれから、うるさい事があってもバイクで走れば上手いこと脱がす事ができると思えるのは便利なことよ。なんか、書くより乗りたくなってきたぞ。ということは今回はこれでおしまいやな。ほいたらねー。